

# 運送業界の健康支援を生きがいに

## 94 2件の大事故、運転者はSAS

例年よりも早い桜の開花も都会ではピークが過ぎ、新年度がスタートしました。「春爛漫」「春眠」とうららかな季節ではありますが、ドライバーにとっては「運転中の居眠り」との闘い、ちょっと辛い季節ですね。

折しも3月28、29日と二日続きで、昨年、社会を震撼させた大事故関連のビッグニュースが2件飛び込んできました。

◎関越自動車道事故の高速バスドライバーは睡眠時無呼吸症候群(SAS) まず昨年4月、乗客7人を死させた関越道の大事故のドライバーはSASであったことが判明というニュースです。あまりにも悲惨な事故としてすでに大所高所から原因究明と対策への議論がなされていますが、SASというドライバーの身体に関わる、つま



り根底の問題も見逃さずわけにはいきません。

◎首都高速道路死傷事故、トラックドライバーはSASで起訴

次に29日、自動車運転過失致死傷容疑で在宅のまま起訴されたのは、昨年7月、首都高速道路で東京税関の職員に乗ったワンボックスカーに追突し、6人の死傷者を出したトラックドライバー(72歳)です。このドライバーはすでにSASと診断を受けていました。が、刑事責任が問えるかどうかの問題で処分保留となっていました。

起訴となった理由が「事故の直前に強い眠気を感じて居眠り状態だったことが分かった」ということによるものですが、SASはいつでもどこ

でも、自分ではコントロールができない強い眠りに襲われます。つまりSASを放置していると、「いつ大きな事故を起こすかわからない、それにより起訴されるかわからない」ということを語っています。事業者も同様に管理責任が問われるわけですから、決して「対岸の火事」ではありません。今までは病気を理由にすると何となく「許される」社会風潮がありました。が、もうそろそろ世の中ではないですね。

◎トラックドライバーの5人に1人がSAS SASは「21世紀の国民病」と言われ、トラックドライバーの場合、5人に1人がSASです。にもかかわらず、まだ検査さえもしていない事業者が数多くあります。また検査でSAS判定を受けているにもかかわらず、治療していないドライバーも見逃してはなりません。大きな事故をおこして人生を(会社も!)台なしにする前に、検査↓治療を徹底しましょう。

OCHISでは25年度も自宅で簡単にできるSAS検査をトラック・バス協会からの受託により実施しています。その対策の進め方についてのご相談も合わせて承っていますので、ぜひお気軽にご相談ください。

《全日本トラック協会・大阪府トラック協会 SAS検査受託機関》

NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)

副理事長 作本 貞子

「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表

TEL : 06-6965-3666

FAX : 06-6965-5261

東京オフィス TEL : 03-3295-1271

E-mail sakumoto@ochis-net.com

HP <http://sas.ochis-net.jp/>